



# 子どもや保護者の思いを受け止められていますか ～自分の保育をふり返って～

今年度の人権保育プロジェクトは、「子どもや保護者の思いを受け止められていますか～自分の保育をふり返って～」をテーマとしました。会議では、「研修の場などでよく使う『受け止める』という言葉は、どのようなことをいうのだろうか」「子どもや保護者の思いを本当に受け止められているだろうか」というプロジェクトメンバーの言葉から出発し、一人ひとりの経験を出し合い、「受け止める」ことについて考えました。そして、話し合われた内容をもとに、かるたを作成しました。

作成したかるたには、子どもや保護者、保育者の具体的な姿が描かれています。各園・所の実態と重ねながら、職員研修や日常の保育の場で、ご活用いただければ幸いです。

## (プロジェクトの様子)

自分のことを語ろう



既存の「人権かるた」を体験しよう

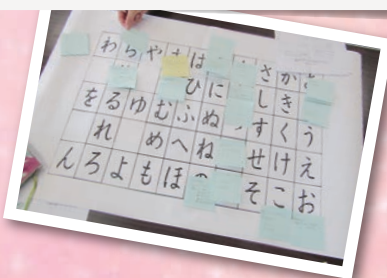
ふり返りを書こう



一人ひとりの保育をふり返って考えよう



プロジェクトメンバーでアイデアを出し合おう



チームで読み札を考えよう



チームで絵札を考えよう



# かるた(人権保育プロジェクト作成)の活用事例

## ねらい

- 自分の保育をふり返る。
- 他者の保育について知る機会とする。
- これからの自分の保育のあり方を考える。
- 「子どもや親の思いを受け止めること」について考え合う。



## 準備物

- かるた(HPからダウンロードして印刷する)
- 人権保育プロジェクトパンフレット(参照用)



## グループ分け

- 3~6人のグループをつくる。

## 活動内容

- ①かるたをする。
- ②すべての絵札と読み札をセットにして並べる。
- ③自分の保育のエピソードとかかわりのあるかるたを選ぶ。
- ④かるたを選んだ理由を話す。
- ⑤他のメンバーは、④を聞き感じたことを返す。
- ⑥一巡するまで④・⑤を繰り返す。
- ⑦「私たちの園・所の『受け止める』」について考え合う。



## その他活用方法

- 保護会等の場で活用  
保護者会の研修の場で、保護者と保育者でグループをつくり、子育て・保育について話し合うツールにする。
- 自分たちのオリジナルかるたづくり  
何も書いていないかるたのフレーム(HPからダウンロードして印刷する)を使って、園・所独自のオリジナルかるたを、自分たちの保育について考えながら作る。



# 人権かるた2021 (三重県人権保育プロジェクト作成)



あさの受け入れ  
その子の気持ち  
受けとめる



いれて「いいよ」  
ほんとの気持ちも  
いいのかな



うそを言う  
その子の気持ちも  
受けとめる



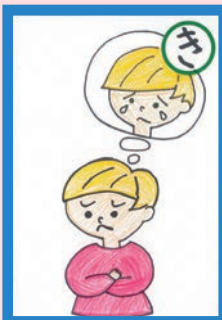
えがおが  
たくさん  
ほんとかない



お母さん  
話してくれて  
ありがとう



かお合わせ  
話したいけど  
また今度



きくらいだよ  
言葉の裏に  
あるものは？



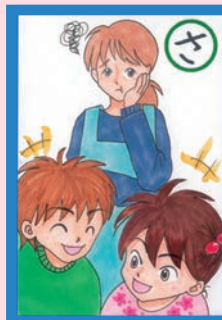
くっついて  
ぎゅっだっこ  
あったかい



けんかの仲立ち  
保育士が  
主導権にぎってる



こめんね「いいよ」  
そのやりとりが  
大事なの？



さわがしい  
それは大人の  
感じ方



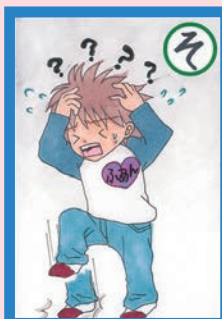
したくない  
この子の本当に  
したいことは何？



すごいじゃん  
簡単な言葉で  
伝えてない？



せいちょうの  
歩幅はそろって  
ないんだめ？



その  
イライラは  
不安かな？



たんざくの  
ねがいに何が  
書かれてる

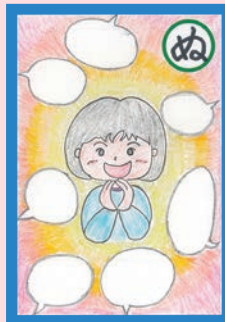


ちちょっと待って  
自分でちゃんと  
決めるから



つなごう  
どういうことを  
言うのかな？





てが出ちゃう  
その子と一緒に  
いたいだけ

とげとげ言葉  
その裏にある  
苦しい気もち

なんでもいい  
自分を誰も  
見てくれない

にこにここと  
笑ってOK  
その場だけ

ぬくもりを  
感じる言葉  
かけてみよう

ねむれない  
今日は何時に  
起きたかな



のぞいてみよう  
その子の  
くらし

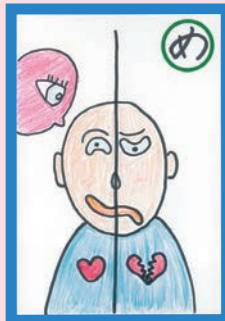
はやくして  
誰の時計で  
言ってるの？

ひとりじゃない  
困ったときこそ  
気がついて

ふんかの違いを  
理解して  
ルールを伝える

へりくつか  
正論なのか  
誰が決める？

ほんねで  
話そう  
子どもたちと



またか...  
その子にとっては  
一回目

みんな同じように  
親の思いは  
受け止められてる？

むりしてる？  
がんばれ  
応援プレッシャー

めで見ると  
だけじゃなく  
子どもの姿

もう少し  
こうしてみたらうと  
余計な一言

やりたいことを  
やってみて  
失敗しても大丈夫





## プロジェクトメンバーによる振り返り

- プロジェクトメンバーで人権かるたをしたことで、自分の保育について振り返ることができました。また、まわりの人の話を聞かせてもらうことで、新たな気づきもありました。例えば、自分が普段当たり前のようになっている子どもたちへの配慮が、実際には子どもの意見を尊重できていないことに気がつきました。職員研修で人権かるたを活用して、「保育で大切にしたいこと」を考えていきたいと思いました。
- 他の先生方の保育に対する思いや考えを聞かせていただき、共感できる部分が自信につながりました。また、「そのような思いや考えも大事だな」と思うことがあり、勉強になりました。保育所に戻り、みんなで人権かるたをして、保育所での自分の姿と重ね合わせて考えてみたいと思います。
- 私は、子ども・保護者・同僚などに対し、相手のことを思っにかかわっているつもりでいましたが、プロジェクトに参加することで、自分が偏った見方になっていたことに気づきました。プロジェクトのみなさんとかるたづくりをしてきたことで、自分の見方が少しずつ変わってきたと感じています。



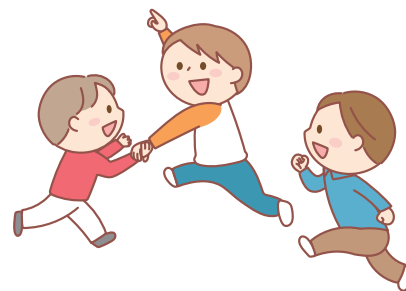
# うけとめること

今回のプロジェクトでは、「うけとめる」ということについての「学びほぐし(unlearning)」を行いました。こどもの気持ちを「うけとめる」ことの大切さ等、保育の現場では「うけとめる」という言葉がよく使われます。しかし、ふと立ち止まって「うけとめる」ってどういうことだろう?と考えたとき、明確に「うけとめる」ことのイメージを持つことは難しいのではないのでしょうか。こどもを「うけとめる」とはどういうことなのか、既成概念や思い込みを排し、保育の具体的な姿から「学びほぐし」てみました。

「うけとめる」とは、こどもの、おとなにとって都合の良い部分だけを見ることでも、こどもを表面的に理解することでもありません。こどもの背景を理解し、良いことも、悪いことも、おとなにとって都合の良いことも、悪いこともまるごと向き合うことです。それは、決して悪いことでも、こどもにとって良くないことでも認めるということではありません。こどもがなぜそのような状態なのかを理解し、ともに良い方向に向かおうとすることです。

ところで、こどもは、対話(ダイアログ)の中で育っていきます。それは、おとなが一方向的に言葉掛けを行ったり、こどもが一方向的に話をしたりする、モノログ(独話)ではありません。対話は、こどもの言葉や行動といった一つ一つの表現を「うけとめる」と、それに応答するおとなや他のこどもの表現を「うけとめる」とから成り立っています。すなわち、表現のうけとめ合いが対話といってもいいかもしれません。

今回の「うけとめる」ことを考えることは、こどもにとってのより良い対話のための一助となるでしょう。さらに、おとなや他のこどもたちの表現を、こどもがどのように「うけとめる」かということも今後考えていきたいです。



人権保育プロジェクト アドバイザー 鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴

公益社団法人三重県人権教育研究協議会

<https://www.sandokyo.jp>

- 人権かるた2021のデータは、  
公益社団法人三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。  
公益社団法人三重県人権教育研究協議会 <https://www.sandokyo.jp>



- リーフレットのバックナンバーは、公益社団法人三重県人権教育研究協議会のホームページからダウンロードできます。

- ▶2006年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶2007年度 / 「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶2008年度 / 「いじめ対応の根っこにあるものは?」
- ▶2009年度 / 「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶2010年度 / 「多文化共生から人権保育を考える②」
- ▶2011年度 / 「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶2012年度 / 「多文化共生から人権保育を考える④」
- ▶2013年度 / 「自尊感情を育むには…」
- ▶2014年度 / 「自尊感情を育むには… ②」
- ▶2015年度 / 「あそぼう! つなごう! ~心をつなぎ合う意図的なふれあい活動をどのように展開するか~」
- ▶2016年度 / 「ともに育ち合う保育~『障がい児共生保育』の視点から考える~」
- ▶2017年度 / 「ともに育ち合う保育~保護者とともに~」
- ▶2018年度 / 「乳児期からの人権保育~1歳の生活から考える~」
- ▶2019年度 / 「乳児期からの人権保育~2歳の生活から考える~」
- ▶2020年度 / 「子どもを認め、寄り添う」とは